



棲

誠に身延山の栖はちはやふる神も
恵を垂れ天下りましますらん。無_レ心

賤男賤女までも心を留めぬべし。中署

かゝる砌なれば庵の内には晝は終

日に一乗妙典の御法を論談し夜は

竟夜要文誦持の聲のみす。(身延山御書ノ一節)

神

